

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業

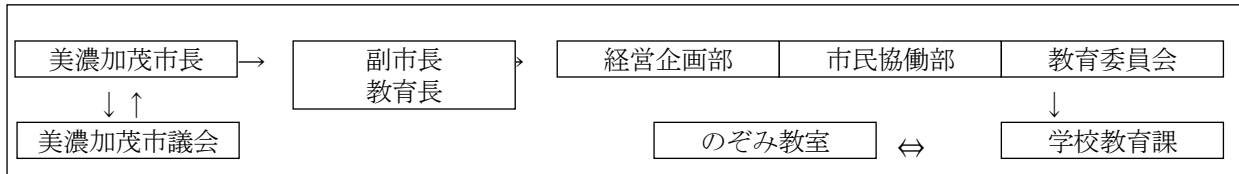
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【岐阜県 美濃加茂市】

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制



市内には、組合立も含め12の小中学校があり、5,492名(令和2年5月1日現在)の児童生徒が在籍している。このうち、外国人児童生徒数は534名であり、市の全児童生徒数に占める割合は約9.7%となっている。小学校の中には、その割合が20%を超える学校もあり、外国人児童生徒の教育を充実させることは、美濃加茂市の教育にとって大きな課題である。

美濃加茂市は平成3年度より外国人集住都市として、外国人児童生徒を学校現場で受け入れ、日本の学校教育の中で成長させるシステムを整えてきた。また、平成21年度より「定住外国人の子どもの就学支援事業(虹の架け橋事業)」を受託し、外国人児童生徒初期適応指導教室「のぞみ教室」(以下「のぞみ教室」という)を開設し、市内在住の不就学となっている児童生徒の支援に力点を入れて指導にあたってきた。平成21年当時は、市内児童生徒数4,966名、うち外国人児童生徒数233名(約4.7%)であったが、現在と比較すると、外国人児童生徒数は約2.3倍になり、その割合も5ポイント増加している。現在はフィリピン国籍の児童生徒数が増加傾向であり、小学校低学年から中学生まで就学年齢に達した児童生徒の来日が多くなっている。外国人児童生徒の就学について、様々な課題がある中、「のぞみ教室」の存在は、外国人の子どもや保護者にとって、また、受け入れる側にとっても大きな拠り所となっており、外国人児童生徒が円滑な就学を行うための重要な役割を果たしている。このような理由から、これまでと同様に、教育委員会事務局学校教育課が直接運営する体制を継続しているところである。

2. 具体の取組内容

①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整

「のぞみ教室」にコーディネーターを配置し、外国人児童生徒の就学に向けた連絡調整を実施した。主な就学先の学校としては、美濃加茂市立太田小学校・美濃加茂市立古井小学校・美濃加茂市立加茂野小学校・美濃加茂市立下米田小学校・美濃加茂市立山手小学校・美濃加茂市立西中学校・美濃加茂市立東中学校である。令和2年度は、59名の児童生徒が「のぞみ教室」に通室して、40名が退室している(令和3年3月15日現在)。そのうち、全員が公立小中学校に就学(うち7名は他市他県へ)し、帰国、外国人学校への就学は0であった。

コーディネーターは、市内小中学校の国際教室担当者会に参加し(今年度はコロナ禍のため1回のみ開催)、「のぞみ教室」における日本語指導の現状について報告した。また、市内中学校外国人生徒のための進路説明会に参加し、通訳業務等を行った。

②学校外における、不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語指導又は学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設

不就学となっている外国人の子どもや来日直後の外国人の子どもに、初期適応指導を行う「のぞみ教室」を開設・運営した。平成31年1月に新校舎を建築し、通室の定員を40名として開設した。今年度は新型コロナウイルス感染症による入国制限もあり、例年になく新規の入室者が少なかった。

<R02年度> 入室者数38名 退室者数40名 ※令和3年3月15日現在

<R01年度> 入室者数76名 退室者数51名

<H30年度> 入室者数73名 退室者数46名

<H29年度> 入室者数69名 退室者数49名

<H28年度> 入室者数68名 退室者数63名

<H27年度> 入室者数55名 退室者数39名

また、子どもへの指導については、コーディネーター(市属職員)3名、日本語指導支援員(市会計年度任用職員)12名(定員)を配置している。なお、児童生徒は、市内全域から「のぞみ教室」に通室するため、令和2年度に13人乗りの送迎用ワゴン車を購入した。

④不就学の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進

例年、市内の公共機関と連携を図り、体験的・実践的な教育活動を展開しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、限られた中での活動となった。

- ・交通安全教室の実施
- ・市立図書館を利用した夏季作品展展示会の開催(9月12日～27日)
- ・外国人生徒進路説明会(全1回/7月19日)
- ・外国人生徒進路学習会(市内2中学校にて各校2回ずつ開催)

⑥その他不就学の外国人の子供の就学促進に資する地域独自の取組

今年度は市の公共施設が十分使えず、外国人児童生徒に対する放課後学習支援が十分できなかった。就学前児童や不就学の児童生徒の保護者に対して、日本の学校における進学の仕組みや必要な費用、日本の学校について、さらには教育費用に備えて貯蓄するための生活設計などが具体的にイメージできるよう、市公式YouTubeにより、ライブラン講座等を配信した。ライブラン講座等はポルトガル語、英語等複数の言語に対応しており、就学前、不就学の児童の保護者が教育に関心をもつ場を設定できた。

- ・市公式YouTubeによる配信(全3回/10月・11月・3月)

3. 成果と課題

支援対象の外国人の子供数(本事業で対応した子供の数)

3～6歳・・・0名 7～12歳・・・50名 13～15歳・・・9名 16～18歳以上・・・0名

①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整

のぞみ教室通室者の就学率が高く、各公立小中学校への円滑な就学ができた。その要因として、児童生徒の家庭環境、指導記録、学習状況等を記録したカルテを作成し、それをもとにしながら、就学先学校の担当者とのぞみ教室コーディネーターが引き継ぎを行っていることが考えられる。一方、中学校に就学したのち特に学習面での不適應を起す生徒も多少あり、各校におけるサポート体制の充実が必要となっている。

②学校外における、不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語指導又は学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設

のぞみ教室で作成したカリキュラムや購入した学習教材を活用し、短期間に集中的な初期適応指導を行うことができた。また、今年度は他市に住んでいた保護者がのぞみ教室のことを知り、子どもをのぞみ教室に入室させたいと希望する方もあった。丁寧に児童生徒に日本語指導する中で、公立小中学校への確実な就学を促すことができた。

④不就学の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進

日本語の初歩的な教科学習を教室で行うだけでなく、体験的・実践的な学習活動を可能な範囲で取り入れることで、生活全般における適応指導(時間を見て行動する、整列する、並んで行動する、片づけをする、グループで行動する等)も行うことができ、日本の学校になじむ基盤をつくることができた。また、公共施設の利用、交通ルールの指導により、社会生活におけるルールやマナーの指導を行うことができた。「のぞみ教室」は、常に通室する児童生徒が入れ替わるため、交通教室や体験活動など、同じ内容の活動を繰り返し行うひつようがある。

⑥その他不就学の外国人の子供の就学促進に資する地域独自の取組

ライブプラン講座等はポルトガル語、英語等複数の言語に対応しており、就学前、不就学の児童の保護者が教育に関心をもつ場を設定できた。今年度のように多くの人が集まること困難な状況が今後も続くことと見れば、動画配信の周知の仕方が今後の課題と考えられる。

4. その他(今後の取組等)

令和3年度「のぞみ教室」スタート予定児童生徒数は33名である。そのうち26名がフィリピン籍児童生徒ということで、今後ますますタガログ語やビサヤ語などの言語を使える人材が必要になってくる。しかし、派遣会社等の企業へ人材が流れてしまい、フィリピン籍児童生徒及びその保護者に対応できる支援員が通年不足している。また、令和3年度にはベトナム語しか分からない児童も通室する予定で、多言語化が課題となっている。外国人教育に関する人材育成についても急務となっており、広く人材を募集するとともに、予算的な面でも充実させていく必要がある。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。